

やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第24号 発行日：平成30年2月1日
発行元 認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター
〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5
TEL. 044-951-6321 FAX. 044-951-6467
発行人：植木昌昭 編集人：佐々木直子

川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり

やまゆりライフを楽しみませんか！
いろいろな、繋がりがうまれますよ…

麻生

区の市民活動の中核施設として

位置づけされている「麻生市民交流館やまゆり」は昨年開館10周年を迎え、同館を管理運営している「認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター」は今年10周年を迎える。

同館を支えている運営スタッフは毎年公募を重ね、新旧の交代はあったが現在50人を超えるメンバーが月2回程度の半日業務をこなしている。地域に戻ってきたシニアが多いので、「新しい友人ができた」「探していたサークルを見つけた」「探していた声がかかった」。女性スタッフは「よさこいソーラン踊り」のグループを結成し、活発なメンバーで楽しみはじめています。

現役時代の専門知識や技術を生かし、同館で開催されるさまざまなイベントの音響・照明を担当しているメンバーは、「サロン文化の創造」を目指して「やまゆりテック」を立ち上げ、夢に向かって進んでいる。

毎年実施している「目指せ！アクティブシニア達のセミナー」は9回目を迎え、受講生の大半は地域デビューを実現している。

「書く力は地域を動かす力があります」とあさお区民記者も2009年から活動しており、また「あなたの持っている知識を紹介しませんか、舞台は準備しますよ」との呼びかけに応じてくれた、区民講師公開講座からは、地域の財産とも言える人材を輩出してきた。（今年の「区民講師公開講座」の詳細は4面に掲載）

「やまゆり」をベースにして新しい交流が、いろいろなネットワークが生まれている。

いずれも、広く門戸を開いているので、新しい繋がりを楽しみ、超高齢化のこれから人生の過ごしかたのヒントを「やまゆり」で見つけていけるでしょうか。

理事長 植木昌昭



やまゆり運営スタッフ



よさこいソーラン踊りを披露する女性スタッフ

→2016年4月設立した「やまゆりテック」歌声喫茶、ダンス、楽芸会など、さまざまなイベントの機材の設置・操作を担当



→1月から開催している「目指せ！アクティブシニア達のセミナー」受講者と運営スタッフ



←あさお区民記者「区民による、区民のための情報発信」を目的に2009年から活動。年6回定期刊行物の企画・取材執筆を担当

←区民講師公開講座「もう一度ギターをはじめませんか」で中村俊博さんからコードの押さえ方を習う受講者



目次

A 安心・安全

「避難所」に泊ってみた P2

S サプライズ

時代を超えた茅葺き屋根 P2

A アミューズメント

バードウォッチング P3

O お役立ち情報

一枚の地図
ふるさと柿生に誘う P3

● やまゆりからのお知らせ

第9回

麻生市民交流館やまゆり
区民講師公開講座 P4

安心・安全

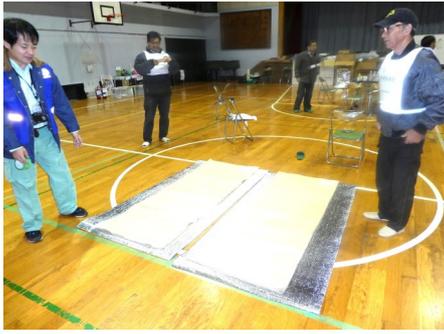


「避難所」に泊まってみた

2017年10月27日19時から翌朝9時まで、真福寺小学校で区役所危機管理担当が避難所設置宿泊訓練を開催。筆者も近隣の町内会長、自治会長、住民、約20人とともに参加した。ケアセンターから保健師や歯科医師も加わった。

訓練では役所の指導で、避難世帯の受付から情報管理、設備の使い方、就寝スペース・通路の設置、食事の炊き出しまで、避難所運営に関する一連の作業を体験した。

ひとりあたりの就寝スペースは1m×2mで、毛布はひとり1枚。収容人数からの標準らしい。狭くて寒くて、腰が痛く、寝返りばかりで寝付けなかった。翌朝、業者がプールの水を飲み水に変える浄化装置の説明をした。能力は200リットル/hだが、人数では心もとなく感じた。歯科医師からは、食事は原



これで2人分のスペースと毛布（銀のマットは今回特別、区役所の配慮による）



浄化した水は美味しかった
（右：浄化装置、左：電源）

則普通食なので、入れ歯を忘れると噛めないとの注意があった。情報は掲示が多いのでメガネも大切に、また、健康を保つには、仕事を見つけてなるべく動き回るのがよい。

実際のとこ避難所はプライバシーも守られず、環境も良くない。可能な場合は、なるべく自宅にとどまろう。訓練に参加して、水、食料などを自宅で備蓄する大切さを改めて実感した。浄化装置の設置は2014年から始めたが、1機150万円と高価なため年1カ所、街角の災害対策給水装置から遠い避難所から実施中。なかなか回ってこないの、独自に避難所宿泊訓練を地元の防災訓練に組み込み、避難所の実態を一度体験することを勧める。

取材・文 区民記者 中島久幸

S サブライズ

小田急線栗平駅に近い麻生区栗木台の一角。一軒の農家の広い敷地でひととき目を引くのが、いまはほとんど見られない茅葺き屋根の蔵だ。

この地で手広く農業を営む飯草康男さんは、江戸時代から続く旧家の六代目。自宅の横にある蔵も江戸期のもので、先祖が質屋をやっていた時に使っていた。茅葺きの古民家は時々目にするが、蔵となるとかなり珍しい。長年、地震や台風にも揺らがない堂々たる屋根は道路からも垣間見え、通りがかりの人が「ちよつと拝見」と訪ねてくることも。

十数年に一度は葺き替えが必要な茅葺き屋根。67歳になる飯草さんが生まれてからも、1960年代、84年、2003年と葺き替えが行われてきた。84年の時は、造園業も兼ねていた飯草さん自ら、近くの空き地でスキを刈り集めたという。



時代を超えた茅葺き屋根

2003年は新潟県から職人を招き、4トントラック二台半の材料を使って新しくした。風情ある茅葺き屋根だが、長く維持していくにはかなりの手間と費用がかかるのだ。

「なんでいまごろ茅葺き屋根なんだとも言われましたけど、蔵で茅葺きというのはほとんどないので、やはり残しておきたかったんですよ」

大事に守ってきた理由をひとこととて言えば「好きだから」。代々暮らしてきた栗木の地と、そこに根つき、積み重ねられてきた歴史や伝統のあれこれとともに大好きだからという意味だ。柿生禅寺丸柿保存会会長を務めるなど、地元文化を守り、伝えていく活動にも熱心に取り組んできた。その屋根には、ふるさとを愛する思いが込められている。

専門の職人が少なく、葺き替えもそろそろ終わりかもしれないという。が、分厚い屋根はまだまだ健在。見上げれば、そこには麻生の昔が時代を超えて息づいている。



飯草康男さん

取材・文 区民記者 佐藤次郎

アミューズメント



バードウォッチング

鳥を見つめるのはまず、聞く、そして見るのだという。やみくもに鳥がいまいかと双眼鏡をのぞいているだけでは見付けることは難しい。生田緑地では定期的に観察会をやっている。今日はその観察会の野鳥の観察会に参加した。二班に分かれた参加者たち、沢山の耳と眼で野鳥を探す。

観察の指導は特定非営利団体かわさき自然調査団の「野鳥班」の方々。生田緑地をめぐりながら、どの木にどんな実がなり、何鳥がやってくるか、やってきたかなど野鳥観察のコツを实地に教える。冬になり木々が葉を落とすと鳥の観察はやりやすくなる。また、渡り鳥も多く見かけられる。普段何気なく見ている鳥が見つけた鳥の名を書きとめていくと意外と多種の鳥を観察できることが分かる。



さえずりを聞き鳥を見つけると双眼鏡で観察する



鳥を探したり記録したり忙しい。運が良ければこの季節25種ほどの観察ができる

野鳥班はこの観察会のほか、定期的な観察を続けており野鳥の種と数を記録する。定点、定期の長期にわたる地道な観察記録は人の都市と鳥類の共生の道の示唆、行き過ぎた自然破壊を警告するものとなる。

さて、生田緑地の観察会の参加者には双眼鏡の用意もある。鳥を見て季節を知り自然を親しむことを知る。請け合いである。

DATA

スケジュール

「かわさき自然調査団」のホームページ参照

http://www.geocities.jp/npo_konrac/

参加費 無料

集合時間 10時

集合場所 かわさき宙(そら)と緑の科学館
-川崎市青少年科学館前
(多摩区枳形7-1-2)

予約不要

取材・文 区民記者 景山 茂

お役立ち情報

一枚の地図 ふるさと柿生に誘う



1927年(昭和2年)小田急が開通した頃の柿生駅周辺(原図に記者加筆)

とあるウオーキングの会「ふるさと」の山河をめぐる」に参加した。その時に配られた1927年(昭和2年)頃の柿生駅周辺の一枚の地図が忘れられず、明治半ばから昭和初期にかけての柿生の風景、人々の暮らしを知りたい思いにかられた。

私たちの柿生は、1888年(明治21年)に黒川、栗木、片平、五力田、古沢、万福寺、上麻生、下麻生、王禅寺、早野の10カ村が一つにまとまって柿生村を名乗り、翌年、岡上村も加わって、「柿生村外一カ村組合」として誕生した。

柿生・岡上の丘陵は、ほとんどが山林で、ナラ、クヌギが多く、雑木林にはカシ、ヒノキ、山桜が自生し、山の斜面にはヤマユリが無数に咲いていた。動物ではウサギ、タヌキなどが生息し、フナ、ヤマバネなどの川魚も豊富だった。

農業は、田んぼや畑が中心で、ウシ、ヤギの酪農や養豚、養鶏をやる農家も多かった。副業としては、養蚕、禅寺丸柿の生産もされ、黒川で焼かれた黒川炭は良質で評判が高く、家庭用、工業用として人気があった。

食生活は、いわゆる一汁一菜が日常の食事で、麦飯に味噌汁、それに漬物と質素なものだった。

柿生は教育にも熱心だった。1873年(明治6年)、5つの学舎が誕生した。片平には、今の柿生小学校の前身になる片平学舎が修廣寺に設けられた。

1911年(明治44年)頃に小学校に入学した、ある男性は「学校へ行く服装は着物で、靴などはなく、弁当・教科書を風呂敷についで登校しました。履物は藁草履でした。弁当は10人に3、4人がさつまいも弁当で、おかずは梅干しでした。(省略)」と思いの記録を残している。

1939年(昭和14年)、川崎市との合併により、村名「柿生村」は消え、「柿生」の名は、駅名、学校、郵便局などに残るだけになった。

この地で人々の暮らしが始まったのは、2万年以上も前「旧石器時代」の頃という。いにしえに思いをはせると、柿生を愛さずにはいられない。

「参考文献」

- ①『ふるさとを語る』(柿生郷土誌刊行会)
- ②『ふるさと柿生に生きて』(柿生 昭和会)
- ③その他(麻生図書館 柿生郷土史料館の所蔵資料)

取材・文 区民記者 石崎純也

第9回 麻生市民交流館やまゆり 区民講師公開講座

4 月

1日(日)	14:00 ~ 16:00	楽しい水彩スケッチ	近藤 浩二
8日(日)	10:00 ~ 12:00	源氏物語を楽しむ会	藤井 悦子
14日(土)	14:00 ~ 16:00	腸内環境から始まる健康と美容	橘 美はる 秋國 直子
15日(日)	14:00 ~ 16:00	どじょうすくい踊りで楽しく健康づくり	森 一郎

5 月

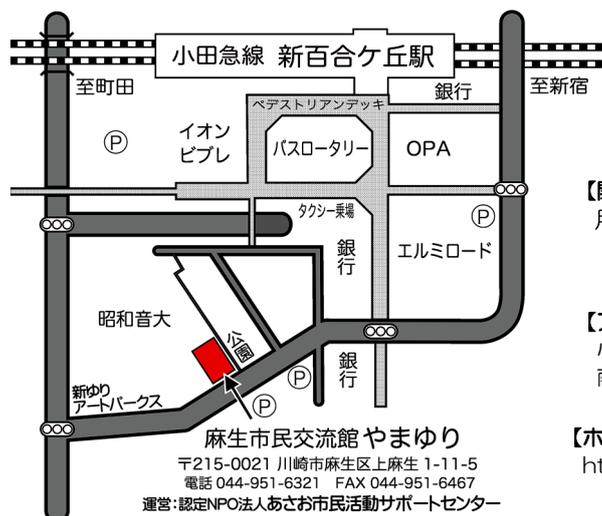
12日(土)	17:30 ~ 19:30	「大人の紙芝居(民話 & 昔話で楽しもう)」	柿澤 弘治
21日(月)	10:00 ~ 12:00	バランスボールエクササイズ	大久保 晴子
23日(水)	14:00 ~ 16:00	ウッドバーニング経験講座	太田 行英
28日(月)	14:00 ~ 16:00	地球と生命の歴史	鎌田 正博

6 月

2日(土)	14:00 ~ 16:00	お遍路 サロン	田中 喜美子 井口 征男
16日(土)	14:00 ~ 16:00	自己実現する人生とは	伊藤 綾乃
24日(日)	14:00 ~ 16:00	はじめて体を動かす方のためのストレッチ	池田 富美
30日(土)	14:00 ~ 16:00	初めてふれるシャンソンの世界	谷 エリ子

開催月の1ヶ月前に、講座のチラシを配布します。
詳細はチラシを参照ください。申込はチラシ裏面にてお願いいたします。

主催 認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター
問合せ ☎044・951・6321 Fax.044・951・6467



【開館日】
月曜～金曜 9時30分～17時
※平日の夜間、土曜・日曜、
祝日も予約すれば利用可。
休館：年末年始、施設点検日

【アクセス】
小田急線「新百合ヶ丘駅」
南口から徒歩4分

【ホームページ】
<http://web-asao.jp/yamayuri/>

あさお区民記者

区民による、区民のための
情報発信を目的に活動。

区民記者は「やまゆりニュース」掲載記事の企画
構成・取材撮影を担当しています。
過去の取材記事はあさお区民記者の
ホームページに掲載しています。



●区民記者&サポートメンバー募集中!

詳しくは info@asao-ku.net に
お問い合わせください